



主要な農作物の生育情報

令和7年度 第11号
(令和8年2月10日現在)
福島県農林水産部農業振興課



【小 麦】

農業総合センターにおける小麦の幼穂形成始期は、本部（郡山市）、会津地域研究所（会津坂下）、浜地域研究所（相馬市）とも2月1日時点で幼穂形成始期に達していません。越冬期間の気温が平年より低く推移しており、幼穂形成始期は平年より遅れる見込みです（表1）。

表1 小麦のは種期と生育ステージ（農業総合センター）

調査場所	品 種	は種期 (月. 日)	出芽期 (月. 日)	幼穂形成始期 (月. 日)	節間伸長開始期 (月. 日)	出穂期 (月. 日)
本 部	ゆきちから	10. 20	10. 29	(平年 3. 5)	(平年 3. 29)	(平年 4. 29)
	きぬあずま	10. 20(±0)	10. 27(－ 3)	(平年 1. 22)	(平年 3. 14)	(平年 4. 24)
	さとのそら	10. 20	10. 29	(前年 2. 21)	(前年 3. 14)	(前年 4. 25)
会津地域研究所	ゆきちから	10. 7(±0)	10. 13(±0)	(平年 3. 10)	(平年 3. 30)	(平年 5. 4)
浜地域研究所	さとのそら	10. 29	11. 7	(前年 1. 30)	(前年 3. 18)	(前年 4. 20)

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 括弧内の数字は、平年差または平年値、本部のゆきちからは準平年値、本部のさとのそら、浜地域研究所のさとのそらの平年値はなし

【野 菜】

1 秋冬にら

収穫は、1年株の2番刈りが平年並の1月中旬から始まり、2年株は現在2～3番刈りが行われています。葉幅が狭い傾向にあり、また、低温により生育が緩慢となり、一部のほ場において葉の黄化等が見られています。

目立った病害虫は、見られていません。

2 いちご

普通促成栽培は、第1次腋果房の果実肥大が進んでおり、順次収穫が始まっています。夏期の高温により頂花房の花芽分化が遅れ、生育がやや遅れていましたが、1次腋果房の開花時期は昨年より早く、平年並となっています。

病害は、うどんこ病が一部のほ場で見られており、害虫は、ハダニ類、コナジラミ類が発生しています。

【果 樹】（福島県病害虫防除所における令和8年1月14日付果樹の病害虫防除情報）

1 カイガラムシ類

(1) 発生状況

令和7年10月モモにおけるシロカイガラムシ類の側枝寄生の発生ほ場割合は、福島地域では平年よりやや低く、伊達地域では平年並に高い状況でした。従来、当県では5月（第1世代）と8月（第2世代）の2回発生と考えられていましたが、前年に引き続き、第3世代幼虫の発生が確認されました。発生世代数の増加により、越冬量が増えるおそれがありますので、今後、せん定作業時などに発生状況をよく確認しましょう。

また、県内の一部地域のももほ場においてナシマルカイガラムシの寄生が確認されていま

す。本種は、枝幹部に寄生し樹液を吸汁するので、樹勢が衰え結果枝や芽の枯死が発生し、シロカイガラムシ類と同様に果実にも被害を及ぼします。

(2) 防除対策

ナシマルカイガラムシの介殻は黒色～灰白色をしており、寄生を見逃しやすいため、せん定作業時などに発生状況をよく確認しましょう。シロカイガラムシ類の介殻は白色であり、両者を区別するポイントです。

発生部位は見つけ次第、ワイヤーブラシなどで丁寧にこすり落としましょう。薬剤防除は、県病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に、休眠期や生育期の防除を徹底しましょう。

【花 き】

1 ユキヤナギ

12月から始まった出荷は順調に続いており、3月まで続く見込みです。

目立った病害虫の発生は見られていません。

2 サクラ

12月から始まった出荷は順調に続いており、3月まで続く見込みです。

目立った病害虫の発生は見られていません。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ）
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/> 等を活用し、適切に対応しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#seiiku>